

「高積雲中の渦巻状巻雲」 を見て

藤村 郁雄

「天気」第5号誌上に「高積雲中の渦巻状巻雲」の写真を拜見一筆認めさせて頂きます。この一連の写真は「巻積雲の中に生じた飛行機雲」であると思います。若しも渦巻状の「雲なしの輪」も含めて言うならば「飛行機の航跡に出来た空模様」とでも思ったらよいでしょうか。以下にその理由を述べます。

1. 過冷却水滴が浮遊している所へ氷晶が生成すれば急速に氷晶が生長し、一方水滴は消滅していくことは氷晶と水滴の表面に対する飽和蒸気圧の差によることは明らかですがこの状況は「天気と気候」(第12巻2号, 昭21. II) に実験観察の報告をしてあります。

2. 私は曾て巻層雲中を飛過した飛行機の跡に巻雲が出来(つまり飛行機雲) た時その巻雲を取り巻いて巻層雲が露れて青空が透けて見えているのを視ました, この時の写真も「天気と気候」に報告してあります。

3. 今度の写真は飛行機が通過してからやや暫く(約10分以上)してから撮影されたものと思います, 最初の15時15分のもが青空から雲に進入して雲中で旋回してから再び青空へ抜けた飛行機の跡が判るようです。

4. 巻雲が筋状にならず塊状になっていますから一寸不思議ですが, これは飛行機の行動とか経過時間が判りませんから何ともいえません。

5. 飛行機が通過したために急速に氷晶が出来, それにつれて水滴の雲が露れ, 結局飛行機雲を取り巻いて青空が見えるようになる, それがこの一連の写真, ことに最後の15時30分までよく表現されていると思います。見ていた訳でなく断定は出来ませんが以上所見を申上げた次第です。

(富士山測候所)

(編集部大井生) 飛行機雲は普通青空に航跡が白く残るもので, 稀に雲の中に出来る時は航跡は青空になるがその中心には雲があるようです。あのように青空が円形に出来るとは考えられません。私も観ていた一人ですが飛び去った跡も認められず, 始めは雲の中にきれいに円形の穴が明き, その中心に雲が出来始めて, 低気圧性に廻転しつつ発達し, しまいには周囲の雲は消えて中心の雲だけが残っていたようで, 当時飛行機と結びつけて考えた人は観ている人の中はいなかったようです。

目 次

表紙写真	稚内沖合で見られた碎氷の流水帯……………1953, 1, 7	稚内測候所撮影(説明は22頁)
表紙2写真	「高積雲中の渦巻状巻雲」を見て……………	藤村郁雄氏撮影
表紙3写真	みちのく秋田……………	小林久雄氏及び朝日新聞社提供

インド・タイ・香港気象台めぐり……………	高橋浩一郎…	1—5	
解 説	エネルギーの波動傳播における大気構造の役割……………	沢田龍吉…	6—8
報	数値予報の基礎(I)……………	岸保勘三郎, 眞鍋淑郎…	9—11
文	風力発電と気象……………	田畑七郎…	12—16
	海水観測の歴史と現況(I)……………	沢田照夫…	20—23
	委託観測結果の整理で気付いたこと……………	河村斌…	28

太陽活動と気象現象との関係についてのアンケート 集計結果並にこれに関する討論……………	太陽活動コロキウム…	17—19
--	------------	-------

222……………	平塚和夫…	24—27
----------	-------	-------

みちのく秋田……………	小林久雄…	表紙3
-------------	-------	-----

書 評	オランダ王立気象局発行「長期予報」, 新しい航空気象……………	8
	The Physics of the Stratosphere……………	23
	動気候学, 寺田寅彦の生涯……………	27